

情報モラル指導における ILAS の活用

関西学院千里国際高等部 情報科・地歴公民科・総合探究科 教諭
米田 謙三

1. はじめに

「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」の第1章総則第2款2(1)には、学習の基盤となる資質・能力について、次のような記述がある¹⁾。

各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科・科目等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

総務省は、青少年のインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化する「ILAS」というテストを指標として開発した。今回は、本校の高校1年生を対象に実施した ILAS について紹介する。

2. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査－ILAS－

2.1. ILAS とは

ILAS とは、Internet Literacy Assessment indicator for Students の略称であり、総務省が開発したテストである。このテストでは、青少年のインターネッ

ト・リテラシー向上のため、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化することを目的としている。総務省では、2012年度より毎年、高校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテスト(ILAS)と、インターネット等の利用状況に関するアンケートをあわせて実施している。

インターネット上の青少年保護については、各種国際会議でも取り上げられてきており、経済協力開発機構(OECD)では、子供と保護者のインターネット・リテラシーのレベルを定期的に評価することを奨励するといった勧告が成立している。OECD等における国際的なリテラシー指標整備の取組に日本からもインプットが必要であり、ILAS調査はこのような国際的な課題に取り組むものである。

2.2. 内容(青少年に必要なリスク対応能力の分類)

ILASでは、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)について、表1のように分類している。

また、ILASには、『情報リテラシー&情報モラルの高さがカギ「7種のリスクを正しく知ろう!」』という補助教材も用意されている²⁾。

表1 リスク対応能力の分類

リスク分類	リスクの具体例	対応能力
1 違法有害情報リスク		
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し適切に対処できる。
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、閲覧制限等	有害コンテンツの問題を理解し適切に対処できる。
2 不適正利用リスク		
2a. 不適切接触リスク	匿名 SNS、迷惑メール、SNS いじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3 プライバシー・セキュリティリスク		
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を図り利用できる。
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

2.3. 具体的な本校の活用事例

本校では、2018年より「学習者中心のICT活用」ということで、生徒が個人の端末を学校に持ち込み、学習に活用するというBYOD(Bring Your Own Device)制度を導入している。

ただし、単に個人の端末を持ち込むというだけでなく、学年の最初に担当教員が生徒に対してICTリテラシーに関する説明会を開催している。また、保護者に対しては、本校のデジタルシチズンシップを身に付けるための教育の流れについて、しっかり入学時に説明している。

ILAS調査には、2017年から参加し、ホームルーム、情報、現代社会(公共)の授業などを使い、毎年高校1年生の全員または一部が参加している。

ILASに参加するには、事務局(総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 情報活用支援室)へ問い合わせる必要がある。その後、表2のような流れでILAS調査を進めていく。なお、事務局から届く資料は図1にまとめた。

表2 実施前後の流れ

実施前	<ul style="list-style-type: none"> 事務局と実施日時の調整 事務局から関係書類の送付 教員のデバイスで動作確認のテストを実施
実施当日	<ul style="list-style-type: none"> 受験ID等を生徒に配布 ILASのアンケート及びテストの受験
実施後	<ul style="list-style-type: none"> 回答を授業で紹介し、時間に応じてフィードバックする 事務局に終了を報告 事務局より個別の学校の結果のフィードバックを受領 総務省より全体の結果の共有

<実施前>

- ILASの実施方法
- ILASのテストおよび受験ID
- インターネット等の利用状況に関するアンケート

<実施後>

- ILASの結果
 - アンケートの結果(高校生のインターネット利用実態、フィルタリング利用状況など)
 - ILASの結果と高校生のインターネット利用実態のクロス集計結果
- ※ ILASの結果とアンケートの結果は、学校ごとのものと参加校全体のものがある。

図1 ILAS調査で届く資料

調査では、実際にインターネット上でトラブルとなりうる重要な論点があがっているため、調査を受けた後に、生徒には問題として出題された内容を、情報の授業等で紹介することもある。また、生徒自身でどこを間違えたのか振り返ってもらったり、グループでどのようにリスクを回避できるのか議論したり、主体的に考える場を設けている。一番のメリットはILAS調査の質問(問題)に答えることで、普段は意識していない危険に気づくことができるのが大きいと考えている。このような機会を通じて、情報セキュリティの重要性を理解し、自らセキュリティ問題に積極的に取り組むようになり、生徒の中にはクラスで発表する者もいた。

ILAS調査では、「違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力」、「適切にコミュニケーションができる能力」、「プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力」という3つの能力を客観的に測ることができるので、その結果に即した啓発教育や環境整備を進めることができる。現在の高校生のSNSの使用状況などを学内で共有し、その結果に応じた生徒へのフォローができたり、安全にインターネットを使うために必要なことを自主的に学ぶことを促すことができたりする。

3. おわりに

ILAS調査は、受験から分析まで様々なサポートもあるので取り組みやすく、特に今年度から新しく始まった「情報I」の「(1)情報社会の問題解決：情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法や情報モラル、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築などについて考察する。」のところで具体的に活用できると考えられる。また、ILAS調査はテストであるため、2025年から新たに始まる大学入学共通テスト「情報I」の情報モラル分野の対策としての活用にもつながると考えられる。

参考文献

- 文部科学省, 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』, 平成30年3月
- 総務省, 「上手にネットと付き合おう!安心・安全なインターネット利用ガイド 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査」
https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/ (アクセス日: 2022年7月1日)